

情報通信審議会 情報通信技術分科会
I Pネットワーク設備委員会（第77回）
議事概要

1 日時

令和5年7月11日（金）10時00分～10時43分

2 場所

Web開催

3 出席者（敬称略）

（1）委員会構成員

相田 仁（主査）、朝枝 仁、石井 義則、岩田 秀行、内田 真人、江崎 浩、武居 孝、
宮田 純子、森川 博之、矢入 郁子、矢守 恭子

（2）オブザーバ

山本 一晴、竹内 宏司（一般社団法人電気通信事業者協会）、
佐子山 浩二（一般社団法人テレコムサービス協会）、
久保 真（一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会）、
小林 直樹（一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟）、
雨宮 明（一般社団法人日本CATV技術協会）、大許 賢一（日本電信電話株式会社）、
田中 晋也（株式会社NTTドコモ）、黒澤 葉子（KDDI株式会社）、
鈴木 和幸（ソフトバンク株式会社）、加納 大三（楽天モバイル株式会社）

（3）総務省

木村 公彦（電気通信事業部長）、五十嵐 大和（電気通信技術システム課長）、
安藤 良将（番号企画室長）、吉田 努（電気通信技術システム課端末認証分析官）、
梶原 亮（電気通信技術システム課課長補佐）、岡本 政信（電気通信技術システム課課長補佐）、
松元 昭博（電気通信技術システム課課長補佐）、中田 五月（番号企画室課長補佐）、
竹淵 翔矢（安全・信頼性対策課課長補佐）

4 議事

（1）I Pネットワーク設備委員会報告（案）の意見募集の結果について

- ・事務局（梶原課長補佐）より、資料77-1、資料77-2及び資料77-3に基づき、I Pネットワーク設備委員会報告（案）の意見募集の結果及び意見を踏まえたI Pネットワーク設備委員会報告（案）の修正について説明があった。
- ・説明終了後、意見交換を行った。
- ・意見交換の様子は以下のとおり。

【江崎構成員】

基本的には説明いただいた形で進めるのが良いかと思うが、ベストエフォート型のデータ伝送サービ

スの「品質の低下」として扱う事象は、設備の故障が原因でトラヒック処理量の低下が発生したものであると明記すべきである。

【梶原電気通信技術システム課課長補佐】

御指摘の点は非常に重要と認識しており、報告書の 21 頁以降で、電気通信設備の故障に起因するものを「品質の低下」として扱い、大型イベントの開催等でトラヒック利用量が増加したことに起因する場合は「品質の低下」に該当しないと記載している。制度運用上の際も留意したい。

【相田主査】

事業者の方々も「トラヒック処理量が 50%減少したときに重大な事故として扱う」ということに対して懸念はあると思うが、これはあくまで報告の基準を暫定的に決めたものであり、今後の運用の状況も見ながら見直しを進めていきたい。事故検証会議にも出席している立場から言うと、事故を防ぐにはどういかに注意すれば良いかを事業者の間で共有するために広く報告いただきたいということもあるので、当面は報告書に沿った形で進めていきたい。

(2) その他

- ・事務局（梶原課長補佐）より、資料 77-4 に基づき、今後の予定等について説明があった。

以上